

景気動向調査

全産業の業況感、 大幅な減少傾向を示す

令和2年4～6月 中小企業景況調査 結果報告書

当所では、藤枝市内小規模事業所の経営動向を把握するため、四半期ごとに景況調査を実施しています。

令和2年4～6月期の調査がまとまりましたので、概要を報告します。

※本調査は、製造業・建設業・卸売業・小売業・サービス業の5種200社を対象に行っています。今回の回収率73.5%

【主要な表現について】

○業況判断：調査対象企業が自らの業績に下した判断。

○DI値：(増加・好転と回答した割合) - (減少・悪化と回答した割合) 悪化すればするほどDI値は▲(マイナス)になります。

管内全産業の業況

業況判断の動向(表1)：全産業での業況は、DI値▲60.4で前回(R2年1月～3月)より25.8ポイント減少。全産業の業況DI値で大幅な減少傾向を示しました。特にサービス業は業況DI値前回▲37.5から今回▲71.4と減少傾向を示しました。全産業、経営上の問題点として、コロナウイルスへの対応が挙げられました。

全産業売上高の推移：前回▲35.3ポイント(R2年1月～3月)から30.7ポイント減少しました。

コロナウイルスの影響による需要の停滞により、全産業が減少傾向を示しました。

全産業資金繰りの動向：前回▲18.3ポイント(R2年1月～3月)から14.8ポイント減少しました。

特にサービス業が今回▲52.8ポイントと減少傾向を示しました。

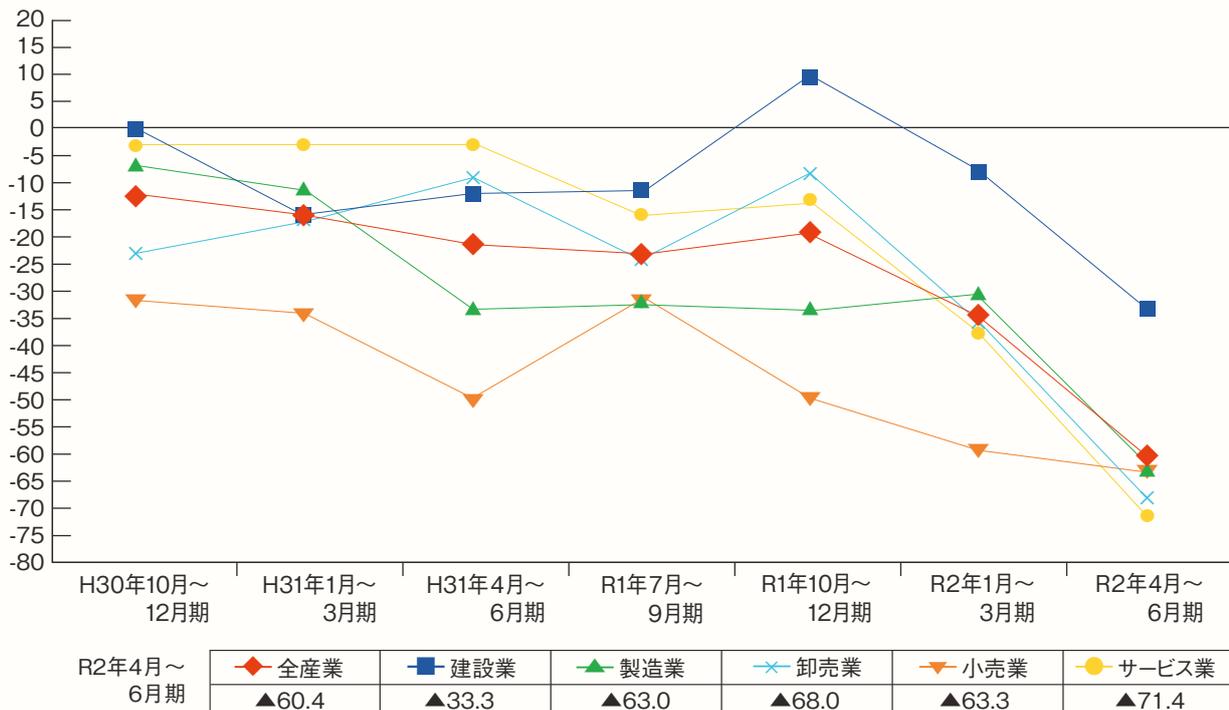
全産業採算の動向：前回▲31.3ポイント(R2年1月～3月)から24.3ポイント減少しました。

全産業が減少傾向を示しました。

全産業雇用人員の動向：前回▲8.1ポイント(R2年1月～3月)から9.6ポイント改善しました。

経済活動の鈍化により人手不足感が軽減し、特に製造業が改善傾向を示しました。

表1 業種別業況判断の動向



問合せ先 藤枝商工会議所 経営支援課 TEL: 054-641-2000